

認知症グループホーム 認知症グループホームくつろぎ

1 基本方針

認知症になっても入居者一人ひとりが個人として尊重され、住み慣れた地域の中で築いてきた暮らしを大切にしながら、その人らしく生活できることを目指す。

2 利用者の状況（令和3年3月31日現在）

（1）入退所の状況

定員	前年度末 利用者数	令和2年度中の入退所状況						利 用 延人員	年間平均 稼働率	年 度 末 利用者数
		入所	退所	退所理由別						
				家庭 復帰	施設 移管	契約解除 (入院等)	死亡			
9人	9人	1人	1人	0人	0人	1人	0人	3,232人	98.39%	9人
元年度 9人	9人	2人	2人	0人	1人	1人	0人	3,224人	97.87%	9人

（2）利用者の介護度別人員

性別	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
男 性	1人	1人	0人	0人	0人	2人
女 性	1人	3人	3人	0人	0人	7人
計	2人	4人	3人	0人	0人	9人

（平均介護度2.11）

3 事業の実施状況

（1）専門的ケアの実施と個別支援

ア 料理・洗濯・買い物・掃除等、入居者の方が出来る事や得意な日常の家事活動など、個々の有する能力に応じた個別支援に努め、役割や生きがいを持てるよう取り組み、認知症の進行が緩やかになるような支援に努めた。また、外出など日常生活の中で楽しみをもって暮らす事ができるよう、その人らしい生活を支援した。

イ 入居者の方の機能を理解し、出来ることが維持できるように支援し、生活リズムや本人の思いに基づいたケアプランを目指し、利用者本位の支援に努めた。

ウ 1日2回、ラジオ体操・ストレッチ・口腔体操を実施した。また、毎月回想法を意識したレクリエーションを企画し、身体活動の機会を多く取り入れ、得意な分野で機能を発揮していただき、体力・機能維持に努めた。

エ 看取りに関する指針の見直しを行い、家族に事前意向確認を実施し、くつろぎにおける今後の対応を確認した。また、通院や往診、健康管理、緊急体制時等、事業所とかかりつけ医や地域の医療機関との連携を図った。

（2）職員の資質向上と人材育成

ア 年3回の職員研修会や毎月の定例会議時に必要な研修を実施し、認知症の方への支援方法に反映出来るよう努めた。重度化・ターミナルケア技術については、今年度は外部研修への参加ができなかったため、今後検討する。

イ 個別面談を通じ個別研修計画を作成し、目指す姿をより明確にし、職員一人ひとりがスキルアップできるよう取り組んだ。また、進捗状況や助言、アドバイス等も随時行った。

(3) 地域社会との連携と認知症理解への取り組み

ア 運営推進会議を2ヶ月に1回、書面による会議を開催し、活動状況やヒヤリハット、行事内容を報告した。運営推進委員（協力医、民生委員、区長、市役所職員、他グループホーム、施設職員、利用者、家族など）から運営や健康管理のアドバイスをいただき、運営の参考となっている。

イ 新型コロナウイルス感染予防のため地域との交流が図れなかったが、散歩やドライブにて、四季やふるさとの景色を感じて頂いた。感染対策をしながらの地域交流の実施方法などが今後の検討課題である。

ウ 防災については、通報訓練、夜間想定避難訓練、地震想定避難訓練を実施した。今年度は、新型コロナウイルス感染予防のため近隣施設及び警察学校との合同訓練は中止となった。今後も他施設及び地域との連携の方法などを構築していく。

(4) 経営基盤の確立

ア 今年度は1名の入院、退所があったが、新規入居者の受け入れがスムーズにできたことから、目標稼働率98%以上を達成できた（実績98.39%）。今後も、看護師、医療機関、家族との連携を図りながら細やかな体調管理を行い、入居者の健康管理と異常時の早期発見に努める。

(5) 労働環境の整備

ア 随時業務の見直しを行い、休憩時間の確保や時間外勤務の軽減に努めた。タブレットによる記録の省力化、介護ロボットの活用による異常時の早期発見等、職員の負担軽減と共にリスクの軽減に繋げている。より働きやすい職場環境を目指して何でも相談し合える風通しの良い職場になるよう、更に取り組んでいきたい。

4 実習、ボランティアの受入状況

(1) 実習の受入実績

受け入れなし。

(2) ボランティアの受入実績

新型コロナウイルス感染予防対策の為、今年度はボランティアの受け入れを中止した。